

秋山 秀行 〔代表取締役社長〕

(株)大町



弊社は、明治 30 年西大寺での、料亭旅館の経営を発祥とします。

昭和 27 年、私の祖母が菓子卸売業を設立し、私は、創業から言えば 5 代目、設立だと 3 代目になります。

私の経営に対して重きを置いていることは、大きさではなく、継承であります。

継承とは、今までがそうであったように、世の中が必要とされる会社に進化していくということです。ダーウィンの進化論のごとく、決して大きいもの、強いものが生き残るのでなく、進化したもののみが生き残るといふ自然の摂理を経営の基本としています。

大町へ入社当初から、自らに弊社の存在理由を問いつづけてきましたが、今から 21 年前、地球村の高木善之さんとの出逢いで、その方向性が明確になりました。

秋山 秀行氏

1958 年 4 月生まれ。
1980 年(株)大丸入社、
1984 年(株)大町入社、
1989 年代表取締役社長就任後、現在に至る。
(財)おかやま環境ネットワーク理事、おかやまコープ虹の会副会長等。

1990 年に(株)げんき村を設立し、食を通して環境問題を気づいてもらおうと商品開発に取り組みました。現在は、(株)大町に吸収し、全体の企業目的として以下の三つを掲げています。

国産素材を使った食を通して、日本の心を伝える。

日本の食文化を継承する中小零細メーカーの発掘と共存共栄
地域の食文化・日本の農業の継承と活性化

8 年前から、日本の心とは何かを毎月一回、全社員で考えつづけています。あるときは、一泊二日の合宿までして、全社員の価値観を共有しています。

14 年前、岡山市の中心地から長船の農業地帯に本社を移しました。そして、14 年間有機・無農薬で作物も自分の手で作りつづけています。昨年からは、農家の人の協力を得て、二つの精神障害者施設の人たちと共に黒大豆の栽培も始めました。今年からは営業社員は、全員種まきも経験しています。

来年は、本気で農業事業に取り組み、弊社の強みである商品開発と販売に結びつけていきたいと思っています。

先進国の中で、食の自給率が 40% という国は、日本だけです。しかも、60% 輸入している国が、30% 食を廃棄している現実に、日本人として“恥”を知るべきだと思います。

また、これだけもの・経済に恵まれているにも関わらず、年間三万人以上の人達が自らの命を絶っている日本。一体こんな状況を引き起こした原因はどこにあるのでしょうか？

全てが右肩上がりを善としてきた価値観を転換する時が来たと思います。

環境問題を突き詰めれば、結局は人間としての“観”をしっかりと持たないと解決しないと思います。

“死生観” “人間観” “幸福感” “仕事観” “夫婦観” 等

私の夢は、この長船の弊社の土地倉庫、商品開発力、多彩な販路を使って、農家の人・障害者の人・中小零細の製造メーカーの人たちと一緒に、協力し、日本の心を共有して、強い弱者連合を作り上げる事です。

合掌